

余市町議会と会津若松市議会との友好交流宣言に関する決議

旧会津藩士団が開拓のため明治4年に余市町に入植し、その後、明治12年には国内で初めてりんご「緋の衣」の栽培に成功し、今ではわが町を代表する特産品となっております。

また、りんごの木、りんごの花は、町のシンボルとして町木、町花に制定されており、今日の余市町の礎を築かれました。

このような歴史的なご縁により、平成27年10月14日に余市町と会津若松市の間で親善交流都市として交流書が締結され、今後、教育、文化、産業、観光など相互の交流を促進することが確認されたところであります。

こうした状況に鑑み、二元代表制の一翼を担う議会としても、これまで行政視察等を通じ交流を進めて参りましたが、一層の親善交流を進めていく上からも、両市町の各分野における行政課題の認識とともに、執行機関に対する有効な政策提言、さらには互いを結ぶゆかりを長く後世に引き継いでいくためにも、議会同士の交流は極めて重要です。

よって余市町議会は会津若松市議会と友好交流議会として連携し、両市町の繁栄と発展のため、なお一層交流を促進していくことを、ここに宣言する。

以上、決議する。

平成29年6月23日

北海道余市郡余市町議会